

科目名	微分積分	科目コード	50130
-----	------	-------	-------

学科名・学年	全学科・3年
担当教員	岩瀬 誠一 (M3, Mb3 担当) 山田 章 (EE3, Ci3 担当) 佐藤 直紀 (Ec3 担当)
区分・単位数	履修単位科目・必履修・2単位
開講時期・時間数	通年, 60時間【内訳: 講義 56, 演習 0, 実験 0, その他 4】
教科書	斎藤斉ほか著 新訂微分積分 大日本図書, 斎藤斉ほか著 新訂微分積分 大日本図書
補助教材	斎藤斉ほか著 新訂微分積分 問題集 大日本図書, 斎藤斉ほか著 新訂微分積分 問題集 大日本図書
参考書	

【A. 科目の概要と関連性】

曲線図形の面積や速度の変わる動点の進む道のりなどはどのようにして計算したらよいか. そのような問題に答えてくれるのが本授業で学ぶ定積分である. 定積分の実際の計算には微分法の逆算である不定積分が使われる. 訓練を通して計算技術を伸ばすことによって, 上記の問題のみならず, 工学全般への積分法の応用力を養いたい.

また, 導関数を利用して, 関数を多項式により近似する方法についても学ぶ.

【B. 到達目標と学習・教育目標との対応】

この科目は長岡高専の学習・教育目標の(C)と主体的に関わる.

この科目の到達目標と, 各到達目標と長岡高専の学習・教育目標との関連を以下の表に示す.

到達目標	評価の重み	学習・教育目標との関連
定積分・不定積分の定義を理解し, その計算に習熟する.	-	c1
面積, 体積, 曲線の長さ, 表面積の定積分を使った求め方を理解し, 求められるようにする.	-	c1
広義積分などの定積分・不定積分に関連する事項について理解を深める.	-	c1
関数の展開について理解を深める.	-	c1

【C. 履修上の注意】

微分の逆算の不定積分が大切な役割を持つてくる. 微分法の復習を充分にしておいてほしい.

【D. 評価方法】

中間・期末の4回の定期試験, 小テスト, レポートのほか, 授業に取り組む態度(発言, 質問回数等)も評価に加味する. 50点以上を合格とする.

【E . 授業計画・内容】

前期

回	内容	備考
1	不定積分の定義・性質，不定積分の公式	
2	不定積分の置換積分法	
3	不定積分の部分積分法	
4	分数関数・無理関数の積分	
5	三角関数の積分	
6	演習	
7	前期中間試験	試験時間：50分
8	試験の返却と解説，定積分の定義・性質	
9	定積分と不定積分の関係	
10	定積分の計算	
11	定積分の置換積分法	
12	定積分の部分積分法	
13	図形の面積	
14	演習	
-	前期末試験	試験時間：50分
15	試験の返却と解説，曲線の長さ	

後期

回	内容	備考
1	立体の体積，回転体の体積	
2	回転面の面積	
3	媒介変数表示による図形	
4	極座標による図形（1）	
5	極座標による図形（2）	
6	演習	
7	後期中間試験	試験時間：50分
8	試験の返却と解説，変化率と積分	
9	広義積分	
10	関数の多項式による近似	
11	数列の極限，級数	
12	べき級数とマクローリン展開	
13	オイラーの公式	
14	演習	
-	後期末試験	試験時間：50分
15	試験の返却と解説，関数の展開の発展的内容	